

生出塚遺跡で新たに埴輪窯跡を発見

【調査の概要】

調査期間:令和8年2月4日(木)から3月31日(火)

主な遺物:人物埴輪、馬形埴輪、円筒埴輪など(いずれも破損品)

主な遺構:粘土採掘坑、埴輪窯跡



粘土採掘坑出土 巫女の埴輪

【発掘調査の経過】

個人住宅の建設計画に伴い、令和7年11月18日に試掘調査を実施した際、地表下1m程度の範囲で多量の埴輪片、焼けた土や炭等が発見され、埴輪窯跡が存在する可能性が極めて高いこと、工事が遺跡を破壊する範囲において実施される計画であったことから、記録保存のための発掘調査を実施しました。この結果、埴輪窯跡3基、粘土採掘坑が発見されました。

また、約30年ぶりに新たに確認された埴輪窯跡は、自然に堆積した土ではなく古墳時代かそれ以前に人為的に形成された土を掘りこんで作られていることが確認されました。このような例は鴻巣市内では初めての発見であり、埼玉県内はもとより全国的に見ても極めて珍しくなっております。なお、粘土採掘坑と埴輪窯跡が隣接して発見される例も鴻巣市内では初めての発見であり、こちらも全国的に見ても大変珍しいものです。

【生出塚遺跡の概要】

生出塚遺跡は、鴻巣市東・天神地域に所在する東日本最大級の埴輪製作跡で、断続的に過去数十回に渡って行われた発掘調査では、計40基の埴輪窯跡を始め、古墳跡や埴輪製作跡等から円筒埴輪及び各種の形象埴輪が大量に出土しています。

なお、「埼玉県生出塚埴輪窯跡出土品」として、生出塚遺跡から出土した70点の考古資料が、平成17年6月に国指定重要文化財となっています。



41号窯遺物出土状況



43号窯土層断面



41、42号窯土層断面図作成の様子